

令和7年度 事業実施報告書

一般社団法人 北陸地域づくり協会

事業名 (個別メニュー)	阿賀川の歴史に学ぶ学習会	事業経緯	継続	実施体制	協力	担当所属	会津若松支所
事業名 (大項目)	地域の利用・整備・保全に関する広報事業	分類名 (中項目)	広報・啓発活動支援事業		事業区分	体験活動等	

1. 事業目的

大正10年に阿賀川改修工事が県より国に移管され、内務省仙台土木出張所阿賀川改修事務所が発足して、令和3年で100周年を迎えた。その節目をきっかけに、地域住民に対し、先人の取り組みの歴史と直轄事業の役割や河川構造物に関わる歴史背景・文化・役割・遺産価値への理解を醸成するとともに、防災と水環境への意識の働きかけを行うことを目的に開催する。

2. 事業実施体制

主催：特定非営利活動法人 会津阿賀川流域ネットワーク
 後援：国土交通省阿賀川河川事務所、福島民友新聞社、福島民報社、
 協力：一般社団法人北陸地域づくり協会

3. 事業実施概要

■阿賀川と只見川の利水・防災学習バスツアー

日時：令和7年10月22日(水) 8:40～16:30
 行程：道の駅あいづ(人の駅河川防災ST)－奥会津ビジターセンター
 一の駅かねやま－東北電力奥会津水力館－本名発電所
 一の駅尾瀬みしま－道の駅あいづ

参加者：41名(スタッフ含む)
 ガイド：各施設担当、国土交通省、主催者

4. 事業実施による効果(評価・貢献度等)

阿賀川直轄改修100周年記念事業(2021年)を契機に始まり、今回で5回目の開催となる。今回は応募方法をハガキ・メール・FAXと広げ、初参加21名、リピーター11名の内訳となった。
 参加者アンケートでは、本名ダム・発電所に興味があった、歴史や防災の学習に興味があったとの回答が多かった。また、参加者から、防災の意識が向上した、初めてダムや発電所を見学し発電のしくみや利水など理解できたという回答があったことから、事業目的の浸透が認められるとともに、川や地域文化に関する知識の普及および啓発に大いに貢献できた。



左から道の駅あいづ(河川防災ST)、奥会津ビジターセンター



左から奥会津水力館、本名ダム・発電所



「阿賀川洪水の歴史」看板